

今日夫は  
怒る者  
心配すな  
感謝して  
業をばじめ  
人に親かに

# レイキの杜

no.19

特定非営利活動法人 現代レイキの会  
2010年 秋号

最後に、「クローバープロジェクト」において、現代レイキの医学的検証についてご協力をいただいております、くどうちあき脳神経外科クリニック院長・くどうちあき先生からのメッセージを御紹介しましょう。



くどうちあき先生

### 「レイキヒーリングと医療現場との コラボレーションの良好な関係を築くために」

まず必要なのは「お互いの共通言語を作る」ことでしょう。具体的には「共通のカルテ」を持つということです。

「カルテ」というものは本来、医者だけのものと捉えがちですが、ヒーラーの皆さんも、施術したときのヒーラーの状態を記録しておくことが大切です。単純に「感じたこと、聞こえたこと、みえたこと」を、誰にでもわかる言葉で記録してください。「カルテ」という言葉にとらわれずに、医師もヒーラーも一緒に読みあえる「コミュニケーションノート」であっていいと思います。

大切なことは、この「コミュニケーションノート」をヒーラー、医者の両者が共有し作り上げていく、そしてそれを確実に実行していくという事です。

レイキヒーリング時に感じたことを感じたままに、例えば「体や心の状態はこうではないか」「この箇所がびりびりする」といった具体的な事柄を「レター to ドクター（医者への書簡）」として感じたとおりのままに「言葉」へ置き換えて書いてください。

それを受けて医者側は「医者の方で見て事象を考察し」医療の参考にします。次に、わかりやすい言葉で「レター to ヒーラー（ヒーラーへの書簡）」として医者からもお返しをしていくのです。そのやりとりを活発にして、いつでも両者がわかりあえるようにしておく必要があります。

その意味から現在では、メールやサーバーなどを利用した電子媒体の利用が有効でしょう。アクセスしやすいデータとして記録できることが魅力ですね。

個人情報法に抵触しないように、略語の使用や誕生日などを暗号化する、例えば私は1958年7月6日生まれなので、「5876KC」という記述にするなどの表現を考えることも大切です。

以上のように、レイキヒーラーと医師の間で、お互いのコミュニケーションの第一歩を踏み出すこと、これがもっとも大切な事だと思っています。機が熟してきたと思われる昨今、より早くの実現を目指しましょう。  
(談)